

この絵は、山下綺莉さん（6歳、自閉症）作です。地域の小学校の支援学級に通う1年生です。ご両親・祖父母、皆さん中国出身の方で、家では中国語で会話しています。そう、彼女はバイリンガルです。幼児通園のころより発語も増え、今は学校に行くのが楽しい様子と、お母様から報告がありました。

この絵は、みどり学園に通園していたころの絵です。歯医者さんがのっている絵本を見たとき、治療を受けたときのことを思い出して描きました。

綺莉さんには遊びにブームがあり、このころ、音感を働かせ、キーボードで何曲も弾いていましたが、今はそのブームは終わっているそうです。しかし、絵を描く

ブームは続いていて、最近では、自分の描いた絵に日本語でストーリーを書いています。その楽しそうな姿がほほえましく、どんな大人になるのか楽しみです。（担当 OT：宮崎明美）



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



木暮シヅ子「カビンの花」

絵画クラブで絵を描きました。花の絵を描くのが好きです。青が好きで濃く描きました。今回「今月の作品」に選ばれて皆から褒められて嬉しいです。（木暮シヅ子）

作者は作業療法の「絵画クラブ」で絵をコピーしたものをなぞる、「写し絵」を長い間描いていました。あるとき、下絵を自分で描くようにと画用紙を渡したところ、画集や実際の花を見て、上手に絵が描けることがわかりました。それ以来、独自の色遣いと力強いタッチで好きな花の絵を描いています。高齢になりましたがパワフルさは衰えません。（担当 OT：安田真実子）